

# 令和5年度教科用図書西諸県採択地区協議会

## 第2回 議事録

日時：令和5年7月12日（水）  
9時から16時30分まで  
会場：小林中央公民館

令和5年度 第2回教科用図書西諸県採択地区協議会 議事録

発言者	発言内容
事務局	<p>【はじめのことば】</p> <p>○ 定刻になりましたので、会を始めさせていただきます。                      それでは、只今より「令和5年度 第2回教科用図書西諸県採択地区協議会」を開会いたします。</p>
西諸県地区代表 教育長（小林市）	<p>【会長あいさつ】</p>
事務局	<p>【日程説明】</p> <p>※ 資料2ページをもとに日程の説明</p>
会長	<p>○ 議事を進めます。これまでの経過報告と今後の計画について事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>○ 調査研究については、3回実施しました。                      各発行者の特徴について研究報告資料にまとめております。                      本日は、調査研究をもとに、11教科13種目について、発行者を1者選定させていただきます。                      今後につきましては、各市町で臨時教育委員会を開催していただき、本日の選定結果をもとに、各市町で採択されることとなります。</p>
会長	<p>○ 次に、選定方法の説明を事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>○ 本日の選定の進め方について説明いたします。                      会長から教科代表者を紹介後、教科代表者より各発行者の特徴や工夫が見られるところについて簡潔に説明していただきます。全ての発行者について説明が終わりましたら、説明に対する質疑を行っていただきます。質疑が終わりましたら、教科代表者に退席していただき、採択委員の皆様協議を行っていただきます。                      協議終了後は無記名による投票を行い、多数決で決めさせていただきます。                      なお、採択につきましては過半数の投票が得られない場合は、再度投票を行います。                      本日は、委員が1名欠席のため、8名の委員による投票で採択を行います。                      以上で選定方法の説明を終わります。</p>
会長	<p>○ ご質問等ありませんでしょうか。</p>
委員	<p>（意見なし）</p>
会長	<p>○ それでは引き続き教科書の選定に入ります。準備をお願いします。                      （各教科代表者による説明及び採択委員協議：以下参照）</p>

令和5年度 第2回教科用図書西諸県採択地区協議会 質疑応答・協議の記録【国語】

発言者	質疑応答・協議等
委員 教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在使っている教科書の使い心地について</li> <li>○ 国語の現在使用している光村図書の教科書は、学年が変わっても、同じ単元構成、指導展開ができるようになっており、前学年までの学習経験であるとか、過去の資料が生かせるような面からも大変使いやすい状況である。</li> </ul>
委員 教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本地区の課題が多く挙がっているが、その課題を考えた時に、本地区の児童にふさわしい教科書について</li> <li>○ 本地区の実態から、主体的に学ぼうとする意欲がもてるような教科書がふさわしいと考える。また、いろいろな条件で書くことに関してうまく表現できない、例えば字数制限など条件を課されて考えや思いを書くことが苦手という実態から、そのような条件の下で書くための力を身に付けやすいような教科書がふさわしいと考える。</li> </ul>
委員 教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● デジタル教材の中で特に優れている発行者について</li> <li>○ デジタルコンテンツについては、どの教科書も工夫がされているが、大きな差というものはないので、どのように教科書を活用していくかということの方が大切なのではないかと感じている。</li> </ul>
会長 教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本地区の実態から補足することについて</li> <li>○ 本地区の児童の課題である自分の考えを表現するという点について、現在使用している光村図書では、複数の領域を組み合わせると一つの単元を構成するなど、効果的に言葉の力を身に付けて、書く力を高めていけるような工夫が見られる。また東京書籍においては、文法と語彙に特化した単元を設定し、文を書く活動を取り入れながら日常の場面で使えるような工夫が見られる。</li> </ul>
委員 教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在使っている書写の教科書の使い心地について</li> <li>○ 現在使用している教科書は光村図書の教科書である。未知の状況に対応できるような力を育成するために、「漢字図鑑」で漢字の成り立ちを解説するなど、文字への関心を高める点において使いやすい状況であると考えます。</li> </ul>
委員 教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科書の構成配列で違いや、ページ数の増減等について</li> <li>○ 学習指導要領解説に基づいて構成をされているので、各発行者共に、学習活動が効果的に進められ、児童が主体的に学習活動を展開できることを見通した構成が見られる。ページ数と内容量については、現行の教科書と大きな差はないものと捉えている。</li> </ul>
委員 教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国語と書写で発行者が同じ方が使い勝手がよいと考えるがその点について</li> <li>○ 発行者が同じであれば、国語の教科書と書写の教科書の内容がリンクするような作りになるので、そういう部分では、同じ発行者の方が使い勝手がよいのではないかと考える。</li> </ul>
会長 教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本地区の実態から参考となる意見の補足について</li> <li>○ 本地区の一番の課題は、書写で学んだことが定着していないということ。そこで現在使用している光村図書においては、学習の進め方が一目で分かるような工夫であったり、書写での学びが日常生活や他教科等で生かされるような工夫が見られる。また、東京書籍においては一年間の学びを見通すようなイラストマップの掲載であったり、国語の学習の中で書写の学びを生かせるような工夫が見られる。</li> </ul>

委員	● 本地区の実態から考えると、東京書籍と光村図書が実態に合っているのではないかと思う。
委員	● 私もそう思うが、特に使い心地も、現在使っている光村図書がよいという説明であった。そのため光村図書がよいのではないかと思う。
委員	● 今使っている光村図書の書写の教科書がいいと思うが、小林の教育では鉛筆の持ち方に力を入れており、光村図書の８ページの鉛筆の持ち方がとても分かりやすく示されている。地域の実態も考慮して光村図書の教科書がよいのではないか。
会長	〈投票〉 ■ 投票の結果、国語について光村図書出版が7票、東京書籍が1票 書写について、光村図書出版が7票、東京書籍が1票
委員	● 異議なし。

令和5年度 第2回教科用図書西諸県採択地区協議会 質疑応答・協議の記録【社会】

発言者	質疑応答・協議等
委員  教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在使用している日本文教出版の教科書の使い心地と、地域素材の取扱いについて</li> <li>○ 現在使用している教科書については、「見方・考え方コーナー」や「学び方・調べ方コーナー」を設けて、主体的・対話的で深い学びができるような工夫があり使いやすい状況である。また、教科書における本県の取扱いについては、全ての発行者で取扱いされている。内容を見ると、宮崎県の野菜であるとか、畜産に関するものが取り上げられている。具体的には、東京書籍は4年のP12「日本地図を広げて」において、地図の中に宮崎県の形と説明が掲載されている。東京書籍ではこのほかにも6カ所ほど、4年生、5年生において掲載されている。次に教育出版は5年生のP61から62、またP254に「未来を支える食料生産」で、地図の中にきゅうり、牛、豚が掲載されている。次に日本文教出版は4年生P112から115に「火山による災害」で高原町の取組について4ページにわたって掲載されている。その他5年生ではP106から111の「畜産の盛んな宮崎県」という内容において、肉牛の生産について6ページにわたって取り上げられている。</li> </ul>
委員  教科代表者  委員  教科代表者  委員  教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今使っている社会科の教科書と地図については発行者が違うが、不都合な点等はあるか。</li> <li>○ 特に不都合な部分についてはない。</li> <li>● 特別支援教育の観点から考えた時、どのような工夫があるか。</li> <li>○ ユニバーサルデザインフォントを採用して、必要に応じて文字の周りに白色系の縁をつけたり、意味の切れめで改行をしたり、色覚特性に配慮した色使いを行うなどの配慮がどの発行者でもされている。</li> <li>● 二次元コードの内容について、どの発行者のものがよりよいか。</li> <li>○ いずれの発行者も工夫がされており、本地区の児童にとってよい教科書となっている。どちらも甲乙つけがたい状況である。</li> </ul>
委員  委員  委員  委員  会長  委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 宮崎県について特に取り扱っている教科書が、東京書籍と教育出版、日本文教出版ということであった。</li> <li>● 現在使用している日本文教出版の教科書には、畜産をたくさん扱っており、畜産が盛んな西諸県地域にはふさわしい教科書であると考える。</li> <li>● キャリア教育を踏まえた視点から考えると、西諸県で盛んな畜産業について、より深いところまで取り扱っている日本文教出版の教科書は、地域の実態に一番合っていると思う。</li> <li>● 説明の中では、大きな差は無いとお聞きしたが、地図については複数学年にわたる使用があるので、大きな差がないのであれば、今使用しているものが、指導上も使いやすいのではないかと思う。</li> </ul> <p>〈投票〉 ■ 投票の結果、社会科について 日本文教出版が8票                      地図について、帝国書院が8票</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 異議なし。</li> </ul>

令和5年度 第2回教科用図書西諸県採択地区協議会 質疑応答・協議の記録【算数】

発言者	質疑応答・協議等
委員 教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本地区の児童の実態を考えた場合、どのような教科書がふさわしいか。</li> <li>○ 本地区の実態を考慮した場合に、各発行者毎に、本地区の実態である個人差が大きいという課題に対する工夫が随所に見られる。例えば啓林館の教科書は、個に応じた課題に対応できるように、巻末に「もっと練習」を設定するという工夫が見られた。また、日本文教出版の教科書については、一人一人の子どもたちの学習状況に幅広く対応できるように、巻末に「算数マイトライ」を設定するという工夫が見られる。その他の発行者もそのような工夫がされている。</li> </ul>
委員 教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在使っている教科書の使い方、使い心地について</li> <li>○ 現在使用している啓林館の教科書については、学習に役立つ情報を見ることができ二次コード工夫があり、動画など視聴することができとても使いやすい状況である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ICTを活用した学習は、子どもたちが意欲的に取り組むというところがあって、算数になると、図形とかそういう部分で、二次コードを使ったデジタル教材の充実したところが、子どもたちが勉強しやすいと感じたので、その部分でよいと感じた発行者について伺いたかった。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 先ほどの説明の中で、やはり個に応じた指導にも十分対応できているし、現在使用している啓林館の教科書というのは、大変使い心地がよいというような回答であったので、現在使用している啓林館の教科書を継続して使用してもよいのではないか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 同じ意見だが、啓林館の教科書を見たときに、他の教科書よりも分かりやすさを感じた。また、継続して使用することで、先生方は教材研究をする上でも、よいのではないかと感じた。啓林館がよいと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 上下巻に分かれている発行者が2者あって、あとは1冊にまとめてある発行者で、やはり1冊の方が使いやすいのではないか。子どもたちの荷物の負担や、上下があると終わってしまった教科書をなくしてしまう可能性もあれば、やはり1冊にまとまっている方がいいのではないかと思った。啓林館と日本文教出版と教育出版には、プログラミングの項目が入っていることを目次で確認したが、それも組み込まれているというのもいいと思った。その中でも現在使い慣れている啓林館というのは選択肢に残るのではないかと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 啓林館という意見もあるが、教科書1冊ということや、個人差が大きいという地域の実態を聞いていると、啓林館と日本文教出版の教科書が、個に応じた学びの工夫が設定してあるということを感じた。</li> </ul>
会長	<p>〈投票〉 ■ 投票の結果、新興出版社啓林館8票</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 異議なし。</li> </ul>

令和5年度 第2回教科用図書西諸県採択地区協議会 質疑応答・協議の記録【理科】

発言者	質疑応答・協議等
委員 教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 西諸県地区の課題である記述問題について各発行者の対応状況はどうか。</li> <li>○ どの発行者も記述問題への対応は考慮されて作成されている。ただ、現在使用している教育出版の教科書は、既習事項の関連、記述や、タブレットを活用した観察実験の方法が分かるような工夫もあり、非常に使いやすい状況である。</li> </ul>
委員 教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本地区の実態として知識技能の定着が難しいが、基礎的、基本的な学習内容の定着ということ考えた時に、どのような配慮がなされているか。</li> <li>○ 基礎的、基本的な学習内容の定着を図るための工夫については、各発行者とも、単元末において評価問題を設定したり、まとめの例を例示したり、学習内容が定着できるような工夫がなされている。例えば、学校図書の5年P38「振り返ろう」のような形で、各者とも評価問題の設定がしてある。</li> </ul>
委員 教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SDGsを考慮した教科書の構成というの、教育出版や学校図書、東京書籍等ではみられるか特に特徴的なもの、また現在使用している教科書の使い心地について</li> <li>○ まずSDGsについては、どの教科書も配慮した記述がなされている。例えば東京書籍のP166では、「理科とSDGs」というような特集が組まれていたりするなど、各者このような配慮がなされている。また、現在使用している教育出版の教科書については、構成等大変使いやすい状況である。</li> </ul>
会長 教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本地区の実態から参考になることについて</li> <li>○ 本地区の児童の実態を考慮した場合、発行者ごとに、本地区の児童の課題である知識技能の定着、根拠を含めた話し合い、記述への対応に関する工夫が、随所に見られている。例えば啓林館の教科書は、「考察しよう」が設定されており、根拠を基に協働しながら結論をまとめていける工夫が見られる。また、教育出版の教科書については、「確かめよう」でこれまで学んだことを使って説明させるような問題を設定し、記述させる工夫が見られた。併せて教育出版については、4年生の教科書において小林市の「まきばの桜」を四季に応じて取り上げるなどの工夫も見られる。</li> </ul>
委員 委員 会長 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 西諸県地区の児童の実態を考えた内容について、教育出版と啓林館に出ているので、そのどちらかを採択してもよいのではないかと思う。</li> <li>● 西諸県地区の児童の課題である記述式問題対応への工夫という点で考えると、今使用している教育出版の教科書が、記述する内容が多いように感じたので、課題を解決できる教科書だと感じる。実態に合った教科書ではないかと考える。</li> </ul> <p>〈投票〉 ■ 投票の結果、教育出版が7票、新興出版社啓林館が1票</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 異議なし。</li> </ul>

令和5年度 第2回教科用図書西諸県採択地区協議会 質疑応答・協議の記録【生活】

発言者	質疑応答・協議等
<p>委員 教科代表者</p> <p>委員 教科代表者</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本地区の児童の課題が大きく3点ほどあるが、その実態を考えた場合、どのような教科書がふさわしいのか。</li> <li>○ 本地区の実態を考慮した場合、発行者毎に本地区の実態である学区の環境の違い、表現力、発展的な学習に関する工夫が随所に見られた。例えば、現在使用している東京書籍の教科書は、公共のマナー等がわかりやすくまとめられており、生活上必要な習慣を身に付けさせる工夫が見られた。また、啓林館の教科書については、タブレット端末等を用いて、多様で具体的な表現方法や児童の発表の例示があり、自分の思いを表現するための工夫が見られた。</li> <li>● 現在使用している東京書籍の教科書の使い心地について</li> <li>○ 幼稚園や保育園と学びを繋ぐためのスタートカリキュラムなどの関連や、主体的、対話的で深い学びへ向かうための構成、安全や公共のマナーなどをわかりやすくまとめられており、使いやすい状況であると考えている。</li> </ul>
<p>委員</p> <p>委員</p> <p>会長 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在使用している東京書籍の教科書は、写真が大きくて、とても読みやすいと感じた。また、光村図書の「広がる生活辞典」、これも使いやすいのではないかと思う。</li> <li>● それぞれ地域によって環境も違うし、状況等も違うと思うが、その中で、幼少期から系統立てて学ぶことができる。マナー等については、東京書籍の教科書がよいという意見もあった。どこの発行者も素晴らしいが、現在使用している東京書籍がよいのではないかと思う。</li> </ul> <p>〈投票〉 ■ 投票の結果、東京書籍が7票、光村図書出版が1票</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 異議なし。</li> </ul>



令和5年度 第2回教科用図書西諸県採択地区協議会 質疑応答・協議の記録【音楽】

発言者	質疑応答・協議等
委員 教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 発行者によって取り扱う曲や題材は異なるか。</li> <li>○ 同じ楽曲もあれば、違う楽曲を選んでいる発行者もある。各発行者が学習指導要領等を考慮して選んでいる。</li> </ul>
委員  教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● どちらの発行者も二次元コードを活用した工夫が見られ、タブレットを用いるという上でも大変有効だと思う。作りが違う部分も見られ、例えば教育出版は二次元コードの横に音楽が流れる工夫や動画が流れるという工夫があり、わかりやすい。教育芸術社は、右上に二次元コードがあって、その中にパソコンマークやヘッドホンマークがある。そのことについて説明してほしい。</li> <li>○ 二次元コードについては、タブレットで読み取る形で入ってくるが、デジタル教科書を使ったり、教科書に付いているCDとかDVDを活用したりしていく形になる。</li> </ul>
委員  教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の課題に、他の地域に比べて児童自身の音楽経験が少ないこと、個人差があることだが、個別最適な学びという視点からどのような工夫があるか。</li> <li>○ 地域の実態から、本地区の児童は音楽に触れる機会が少ないという実態が挙げられているが、二次元コードからいろいろな音楽が取り出せ、触れる機会は増えていく。併せて個別最適な学びに対応するものとするれば、タブレットを使ってそれぞれのペースで音楽作りに取り組みたりすると考えている。両者にそのような工夫が見られる。また、題材の中で子どもの技能に合わせて選択することも可能であり、できる子どもたちは、より高い課題を選び取り組める。</li> </ul>
委員 教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 宮崎県に関係する題材はあるか。</li> <li>○ 教育出版では5年生で「ひえつき節」を、教育芸術社では同じく5年生で「刈り干し切歌」を取り上げている。</li> </ul>
会長 教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本地区の実態から参考となる意見について</li> <li>○ 本地区の実態を考慮した場合に、発行者ごとに本地区の児童の課題である音楽に触れる経験等の不足からくる知識・技能の個人差があることに対する工夫が見られる。例えば教育出版では、「学びリンク」のコンテンツが増えている。動画を通して児童の知識・技能を高められるような工夫が見られる。また教育芸術社では「育てよう 楽譜マスター」で系統的に知識・技能を高められるような工夫が見られる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在教育出版の教科書を使用しているが、同じ教科書を使用することが望ましいと考える。また、教育出版の1年生の教科書のP33表示が写真も大きくすぐ見やすい教科書になっているので学びやすいと感じた。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育芸術社は、巻末に「君が代」が掲載されていて、全部の学年で同様に載っていると考えた時に、教育出版の方には国歌が見つけれなかったが、そこをどのように考えたらいいか。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国歌は指導事項ですので、教科書の途中で必ず出てくる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育出版は巻末ではなく教科書の途中で扱うようになっている。</li> </ul>
会長	<p>〈投票〉 ■ 投票の結果、教育出版7票、教育芸術社1票</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 異議なし。</li> </ul>

令和5年度 第2回教科用図書西諸県採択地区協議会 質疑応答・協議の記録【図画工作】

発言者	質疑応答・協議等
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 西諸県の課題の中で、発達段階でイメージすることを苦手とする児童が多いという課題があるが、今回の教科書では、絵や写真が日本文教出版の教科書は多いと感じた。多くの作品にふれることが、子どもたちにとっては作品を作る上でイメージしやすいと思う。ただ、開隆堂にも二次元コードがあり、作品も多くあると思うが、作品の数について</li> </ul>
教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 二次元コードも調べた。2者共に児童の作品、そして鑑賞作品が多く掲載されており、どちらも見やすくなっているという研究結果である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実態として、「見方、考え方、感じ方」も弱いという説明だが、実態から考えるとどのような教科書がふさわしいか。</li> </ul>
教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本地区の実態を考慮した場合、発行者毎に、本地区の児童の課題である発想段階でイメージすることを苦手とする児童が多く、教師の意見を聞きながら慎重に制作しようとする姿が見られるということに関して、両者に随所に工夫が見られた。具体的には、例えば開隆堂の教科書は、思考を可視化するための「発想を広げるアイデアシート」などが示されており、思考力、判断力、表現力を育成できるような工夫が見られる。また、日本文教出版の教科書は、思考を可視化するための「シンキングツール」や、児童のワークシートなどが掲載されていて、思考力、判断力、表現力等を育成できるような工夫が見られた。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 両者とも、子どもたちの実態に即した形で構成されているが、現在使用している日本文教出版の使い心地はどうか。</li> </ul>
教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科書の使い方が、一つの題材を例に挙げて、詳しく説明されていると共に、児童が主体的に、図画工作の学習の進め方を把握できるような工夫があり、使いやすい状況であると考えている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 説明を聞いていると、西諸県の実態からいうと、2者とも工夫ができていて、よいのではないかと思った。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 意見は同じだが、現在使用している教科書は日本文教出版で、開隆堂の「アイデアシート」も子どもたちがイメージを膨らませるのにすごくいいと思った。作品の多さを考えたら日本文教出版の方がいいのかなと思った。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本文教出版の方を見ると、子どもたちが学習の流れを見通せる工夫がされており、学習の流れをイメージ化できることが児童の理解には大事なのではないかと思うので、どちらかという日本文教出版の教科書の方がよいのではないかと思う。</li> </ul>
会長 委員	<p>〈投票〉 ■ 投票の結果、日本文教出版が8票</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 異議なし。</li> </ul>

令和5年度 第2回教科用図書西諸県採択地区協議会 質疑応答・協議の記録【家庭】

発言者	質疑応答・協議等
委員  教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の課題で、金銭教育の知識であるとか活用する力が不十分であると言うことだが、金銭教育とか消費者教育を取り扱っている内容について</li> <li>○ 金銭教育に関しては、消費者教育で、例えば東京書籍では「持続可能な社会へものやお金の使い方」という内容がP36にある。買い物は売買契約であり、いろいろな支払い方法があるということなど、買い物の方法と種類、インターネットの取引で注意するようなことを学ぶようになっている。そして欲しいものをただ買うのではなく、目的を考えて買ったり、計画を立てたりすることが重要だと学べるように工夫してある。また、開隆堂に関しては、生活を支えるものやお金という内容がP58にある。買い物の失敗を繰り返すことから、買い物は売買契約であるということ、それからいろいろな買い物の方法、買い物に必要な情報を学ぶようになっている。買い物の仕方を学んだ後に、実際の生活に生かそうとする内容になっている。このような売買契約の基礎に加えて、エシカル消費という観点にも触れているという工夫がある。</li> </ul>
委員  教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 家庭科は、人間が生きていく上で重要な教科だと思う。手伝いの体験をしていることで知識や技能の習得の面で差があるということだが、子どもたちの実践意欲を高めるような工夫が見られる教科書について</li> <li>○ どちらの教科書にも二次元バーコードがあり、それを使うことで、タブレットを活用し、例えば家庭に持ち帰ったりしたときに、二次元バーコードを使用し、家で具体的な手順等を確認することができる。どちらの教科書も、家庭で学習することに生かすことができる。</li> </ul>
委員 教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中学校とのつながりについて</li> <li>○ 東京書籍の場合には、2つのリングをあしらったマークがあり、他教科や中学校の学習との関わりを示し、その学習が中学校ではどのように発展するのかということが分かるようになっている。開隆堂に関しては、「2年間の学習を中学校につなげよう」という内容がP136から137に掲載されており、中学校の学習へ期待すると共に、イメージを広げやすいという提示の工夫が見られる。</li> </ul>
委員  委員  委員  会長 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在東京書籍を使用している。2者を比べたときに、東京書籍の教科書は調理実習の学習において、調理器具の扱い方から説明されており、子どもたちが取り組みやすいのではないかと感じる。そういう意味で東京書籍の方がよいのではないかと考える。</li> <li>● 両者とも甲乙付けがたいと考えた場合、使い慣れた教科書の方が、子どもたちにも先生方にもよいのではないかと考える。</li> <li>● SDGsや消費者教育、金銭教育等を比べたときに、どちらも素晴らしいと感じるが、子どもたちが学習していることを継続していくことを考えても、現在の東京書籍を使用することがよいのではないかと考える。</li> </ul> <p>〈投票〉 ■ 投票の結果、東京書籍が8票</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 異議なし。</li> </ul>

令和5年度 第2回教科用図書西諸県採択地区協議会 質疑応答・協議の記録【保健】

発言者	質疑応答・協議等
委員 教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● それぞれすばらしい教科書だと思うが、現在使用している教科書の使い心地について</li> <li>○ 現在使用している東京書籍の教科書については、児童が見通しをもって、主体的に学習を進められるように、「学習の進め方」のステップ4ではこれから実践したいことを記述したり、資料を付けて、学習内容を深めたりするといった工夫があり、使いやすい状況がある。</li> </ul>
委員 教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本地区の実態にふさわしい教科書について</li> <li>○ 本地区の児童の実態として、知識として学んだことを自分の実践にいかしたり、習慣として持続したりということが十分にできていないという実態がある。そのことから、日常生活につながられるような記入欄や身近な例などが紹介されている工夫がより多く見られるような教科書がふさわしいと考えている。</li> </ul>
委員 教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● どの発行者も二次元コードが付いていると思うが、6者の中で特にデジタル教材が充実している発行者について</li> <li>○ 6者全てに二次元コードはついていて、研究の中で、本地区の実態の規則正しい生活を送ったり、意欲的に運動を行ったりするという点において個人差があるという実態があるので、例えば東京書籍が、イラストや動画で病気について紹介することで、より規則正しい生活をする意欲を高める工夫が見られた。また、大日本図書においても、動画やクイズで病気の原因や予防を示すことで、より規則正しい生活を送る意欲を高める工夫が見られた。</li> </ul>
会長 教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本地区の実態から参考となる意見について</li> <li>○ 本地区の児童の実態として、規則正しい生活をおくったり、意欲的に運動を行ったりするという点において個人差があるという実態がある。また、知識として学んだことを自分の実践にいかしたり、習慣として持続したりということが十分にできていないという状況が見られるので、その実態に応じた教科書が本地区の児童生徒にはふさわしい教科書だと考えている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 西諸県の実態で、個人差とか、一人一人の課題に応じた教科書が適切なのではないかということを感じている。特に、現在使用している東京書籍については、使い心地もよく、イラストや文章の配列等も分かりやすくなっていると説明を受けたので、適切なのではないかということを感じた。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の課題についての説明があったが、その課題から言うと、東京書籍もそうだが、大日本図書も工夫がよくできていると感じた。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● やはり子どもたちが、事故などに対して、自分で対応する能力を養うということであれば、各委員のみなさんが仰っています東京書籍の動画が活用されており、学びやすいと思っている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全者見たが、東京書籍の構成がわかりやすかった。デジタル教材の内容も素晴らしく、東京書籍がいいのではないかと思う。</li> </ul>
会長	<p>〈投票〉 ■ 投票の結果、保健については東京書籍が8票</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 異議なし。</li> </ul>

令和5年度 第2回教科用図書西諸県採択地区協議会 質疑応答・協議の記録【外国語】

発言者	質疑応答・協議等
委員  教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地区の実態で学習意欲に差がある説明があったが、中学校への接続という点で各発行者の工夫等</li> <li>○ それぞれの児童の発達段階に応じて、楽しみながら外国語や外国の文化に触れることを中心に授業を実施していく必要がある。そういう点から各発行者の教科書を見たときに、工夫が見られた。特に、苦手意識を持っている児童に関しては、スモールステップで学習に取り組めるよう各発行者工夫してある。</li> </ul>
委員  教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在使用している開隆堂の教科書の使い心地について</li> <li>○ 開隆堂の教科書については、見やすさと読みやすさに配慮されたユニバーサル書体が用いられ、独自に開発された書体も用いられている。また、1行あたりの文字数を30文字以内にし、児童にとっても読みやすく分かりやすいような工夫がなされている。併せてデジタル教材に関し、語句や表現の音声、リズムを確かめるため、児童が「ソングボックス」または「チャンツボックス」というデジタル教材を活用し、より学習に意欲的に取り組めるような工夫がなされている。また、児童や教職員と話した時に、現在の教科書は使いやすいという意見を聞いており、使いやすい状況であると考えている。</li> </ul>
委員  教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 課題の中に、目的や場面、状況に応じたやり取りに苦手意識があるが、その課題を解決するための工夫について</li> <li>○ どの教科書も、具体的な場面の設定から、少しずつ一般化させていく設定がされており、スモールステップの学習を通して、子どもたちが日常的なやり取りのスキルを身に付けさせることができるような工夫がされている。</li> </ul>
会長  教科代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本地区の実態から参考となる意見について</li> <li>○ 本地区の実態として、目的や場面状況に応じたやり取りということが課題。そういう視点から見たときに、現在使用している開隆堂につきましても、各活動の目的を明確に示したり、具体的な表現例を記載したりして、自分の考えや気持ちを伝え合う児童を育成できるような工夫が見られる。また、光村図書につきましても、「レッツトライ」において、伝え合う目的をそれぞれに示して、単元末の活動につなげるといった工夫をしながら、自分の考えや気持ちなどを伝える力を育成できるような工夫が見られる。</li> </ul>
委員  委員  委員  会長  委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小学校段階で、英語に対して苦手意識をもっている児童が多いという課題を考えた時に、もし、他の発行者の教科書に変わった場合、子どもたちにとっては単元構成や授業の進め方等が変化するため、戸惑うことが考えられる。</li> <li>● 先ほどの説明の中で、児童の感想や教職員の感想から、現在使用している教科書が使いやすい状況であるという意見や、つまりきやすい教科であるという特性を考えると、小学校段階では、子どもにとって楽しく、分かりやすいということ、そして指導者にとっても指導しやすい教科書が望ましいと考える。</li> <li>● 先ほどの説明から、課題の改善や中学校との接続などのことを考えるとどの教科書でもそれらの点については工夫されていたが、目的や場面状況に応じたやり取りという課題に対する工夫が見られるのが開隆堂と光村図書ということであった。</li> </ul> <p>〈投票〉 ■ 投票の結果、開隆堂出版8票</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 異議なし。</li> </ul>

令和5年度 第2回教科用図書西諸県採択地区協議会 質疑応答・協議の記録【道徳】

発言者	質疑応答・協議等
<p>委員</p> <p>教科代表者</p> <p>委員</p> <p>教科代表者</p> <p>会長</p> <p>教科代表者</p>	<p>● 現在使用している教科書・ノートの使い勝手について、また、今回6者の中でノートが準備してある発行者は何者か。</p> <p>○ 現在使用しております日本文教出版の教科書に付いているノートについては、子どもたちの考えを見取りやすく、また、教材準備の手間も省くことができ、大変使いやすい状況である。ただ、現在使用しているノートには発問が書いてあり、教師の裁量で発問を変更する際に、少し使いにくさを感じていたが、今回の改訂で、発問を自由に変更できるように工夫改善されている。また、他者のノートの状況について、「ノート」という形で冊子として準備しているのは日本文教出版、二次元コードを読みとりデータとしてダウンロードできるのが東京書籍となっている。その他の発行者については、教師が創意工夫で活用できる資料、素材、ワークシートが準備してある。</p> <p>● 本地区の児童を考えたときに、どのような教科書がふさわしいか。</p> <p>○ やはり大事にしたいのは、本地区の児童の実態がある。そういった視点で工夫が見られる教科書がふさわしいのではないかと思う。</p> <p>■ それでは、本地区の実態から、参考となる意見について</p> <p>○ 現在使用している日本文教出版は、「自分を見つめ、自分の良さについて考えること」が編集にあたっての基本方針とされている。このことから、自分の良さを見つめられる教材、また「心のベンチ」というコラム、こういったものを掲載することで、自己肯定感を養い、自分も周りも大切に思える心を育むような工夫が準備されている。また、光村図書の教科書では、「みんなで気持ちよく話し合うためのコツ」というページが掲載されており、相手の考えを丁寧に受け止めながら他者との対話をスムーズに進めるようにする工夫が見られている。</p>
<p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>会長</p> <p>委員</p>	<p>● 現在使用している日本文教出版の教科書については、ノートが付いており、これまではノートの使いづらさもあったが、それも改善されて使いやすくなったという説明を受けた。そういう意味では、道徳というのは、子どもたちにしっかり物事を考えさせ、子どもたちの課題をクリアするためには、日本文教出版のノートをうまく活用するという上では重要だと感じた。使用感もよいのではないかと感じた。</p> <p>● 現在使用している日本文教出版の教科書は、教材研究などこれまで使ってきたことで時間短縮ができ、深く踏み込んだ研究もできるのではないかと思う。また、自己肯定感が低いという実態のある西諸県の児童にとって、自分のよさを見つめられる工夫のされている教科書であることから、自分のよさを見つけて自己肯定感を高められるということを考えると、日本文教出版がよいのではないかと考える。</p> <p>● 今、日本文教出版のよさについての意見があり、私も賛成だが、教科書の工夫ということから言うと、光村図書もよいのではないかと考えた。</p> <p>〈投票〉 ■ 投票の結果、日本文教出版が7票、光村図書出版が1票</p> <p>● 異議なし。</p>

発言者	発言内容
会長	○ 以上で11教科13種目全ての選定が終わりましたので、選定結果等の確認を事務局の方でお願いします。
事務局	<p>○ それでは各教科選定しました発行者について確認いたします。</p> <p>国語につきましては「光村図書出版」  書写につきましては「光村図書出版」  社会につきましては「日本文教出版」  地図につきましては「帝国書院」  算数につきましては「新興出版社啓林館」  理科につきましては「教育出版」  生活につきましては「東京書籍」  音楽につきましては「教育出版」  図画工作につきましては「日本文教出版」  家庭につきましては「東京書籍」  保健につきましては「東京書籍」  外国語につきましては「開隆堂出版」  道徳につきましては「日本文教出版」  以上のように採択されました。</p> <p>今後につきましては、各市町では今日の結果を受けまして、臨時教育委員会を開催して、採択となります。</p> <p>また、各市町でホームページに公表できるよう準備を進めていただきます。以上です。</p>
会長	○ それでは、以上で議事の全てを終わりたいと思います。ご協力ありがとうございました。
事務局	<p>○ 長時間にわたるご協議、ありがとうございました。最後に1点皆様にお知らせがございます。</p> <p>情報の公開につきましては、第1回採択地区協議会で確認したとおりとなっております。現段階では資料の開示等ができませんので、本日の資料は回収させていただきます。そのまま机の上に置いてお帰りください。また、今回の内容につきましても、慎重な対応をよろしく願いいたします。</p> <p>以上をもちまして「令和5年度第2回教科用図書西諸県採択地区協議会」を終了します。ありがとうございました。</p>